

明治から大正にかけて活躍した標本商、長與について

説田健一・時田賢一*

On the specimen dealer, Mr. Nagayo, who played an active part from the Meiji to the Taishou eras

Ken-ichi SETSUDA & Ken-ichi TOKITA

1. はじめに

岐阜県博物館では、平成11年(1999)9月に岐阜市内の柳原家から柳原要二(1892-1961)が明治後期から昭和初期に折居彪二郎、初山徳太郎、長與鼎、高山鼎二などから購入または交換して収集した鳥類標本1521点の寄贈を受けた(説田・時田, 2001)。当館では、特別展「あのころいた鳥」で、柳原要二鳥類コレクションの概要を紹介し(岐阜県博物館, 2001)、標本収納箱から見つかった折居彪二郎の書簡の内容を翻刻し、折居彪二郎と柳原要二の関係を考察した(説田・齊藤, 2003)。

柳原要二鳥類コレクションには、長與標本店から購入した標本(本剥製、仮剥製、巢卵標本など)が99点ある(説田・時田, 2001)。長與標本店について、詳しいことは分かっていないが、山階(1934)はムコジマメグロ *Apalopteron familiare familiare*の項目で『猶ほ黒田長禮氏に拠れば京都帝国大学には父島にて長與氏(實際渡航したるは高田昂なりと云ふ)が1910年11月に採集したと云ふ此の亜種の1標本が蔵せられて居ると云ふ』と記している。また、森岡(2000)は『長與標本店が横浜の某所にあった』と生前の小林桂助氏から聞いている。

本稿では、柳原要二の住所人名録、標本収納箱の宛名書き、仮剥製の標本ラベルから判明した長與標本店の所在地と取引があった動物採集人を紹介し、国立科学博物館所蔵(旧京都帝国大学所蔵)のものを含め、長與標本店のメグロ *A. familiare* 標本について考察した。

2. 柳原要二の住所人名録について

本住所人名録(図1)は縦18.5cm横12cmの大きさに4頁あり、製本された住所人名録から外して保存されたものである。作成時期は不明だが、標本商、書店、研究者、医者などの住所が書き込まれている。

このうち、長與鼎は、1頁1行目にあり、職業は「博物標品商並輸出入商」、住所は「東京市神田区裏猿楽町六番地」とある。本稿の論旨からは外れるが、標本を扱う業者は長與以外に、1頁5行目に鳥津製作所標本部、

同じく8行目に柴山悦次郎、同じく9行目に花岡博物標品店、2頁4行目に高山鼎二、同じく5行目に折居彪二郎、同じく10行目に藤本太一を確認できた。

3. 標本収納箱の宛名書きについて

長與鼎(または長與標本店)とその住所(東京市神田区裏猿楽町六番地)が記された標本収納箱は5箱、確認できた。

1) 大正9年(1920)7月25日発送の収納箱(図2)

この収納箱は紙貼りの木箱で、大きさは幅14cm、奥行き51.5cm、高さ20cmであった。蓋表の上方に貼られた半紙の右上に「岐阜局内細畑150 柳原要二殿行」、左上に「大正九年七月廿五日」、左下の隅に長與鼎の住所と名前の印がり、その下に墨で「出入」とある。また、蓋表の左下に(開函ノ節御注意)と墨書きがあった。

2) 大正9年(1920)8月6日発送の収納箱(図3)

この収納箱は木箱で、大きさは幅11cm、奥行き26cm、高さ10cmであった。蓋表に右上に「岐阜局内細畑150 柳原要二殿」、左下の隅に長與鼎の住所と名前の印があり、その下に墨で「出入」とある。また、箱の右側面に「大正九年八月六日」、左側面に{開函ノ時在中ノモノヲ破損セヌ様注意}と墨書きがあった。

3) 大正10年(1921)10月11日発送の収納箱(図4)

この収納箱は木箱で、大きさは幅24cm、奥行き51cm、高さ23cmであった。蓋の表に貼られた半紙の中央に「岐阜局内細畑150 柳原要二殿行」の墨書き、左上に「大正十年十月十一日」、左下の隅に長與鼎の住所と名前の印とその下に墨で「出入」とある。また、蓋の裏には、須走郡須走村の高田昂から長與鼎への宛名書きが貼り付けてあった。

4) 発送日不明の収納箱1(図5)

この収納箱は紙貼りの木箱で、大きさは幅31cm、奥行き39.5cm、高さ15cmであった。蓋の表に右上に「岐阜局内細畑150 柳原要二殿行」の墨書き、左下の隅に長與鼎の住所と名前の印とその下に墨で「出入」とある。

* 我孫子市鳥の博物館(〒270-1145 我孫子市高野山234-3)

5) 発送日不明の収納箱 2 (図 6)

この収納箱は木箱で、大きさは幅14cm、奥行き51.5cm、高さ20cmであった。蓋表に「岐阜局内細畑150 柳原要二殿行」、箱裏に送付元(長與鼎)住所の墨書きがあった。

4. 長與標本店の仮剥製のラベル

柳原要二が追加したラベルに購入先を長與と記録した仮剥製は43点ある(図7-9B)。購入先のラベルが外れた1点を除き、長與が柳原に販売した標本のラベルは3種類が確認できた。

1) 標本店名が印刷されているラベル

中央下に「長與標本店」と印刷されたラベル(図7A)が付けられた仮剥製標本は14点ある。柳原は大正9年(1920)7月20日(5点)、同年11月5日(8点)、同年11月7日(1点)にこれらを購入している。

2) 標本店名が印刷されていないラベル

標本店名の印刷はないが、図7Aのラベルと大きさや筆跡がほぼ同じラベル(図8A)が付けられた仮剥製標本は13点ある。柳原による追加ラベルに長與から購入したことが記録されている(図8B)。柳原は大正9年(1920)12月7日(2点)、大正10年(1921)2月14日(1点)、同年12月6日(8点)、同年12月7日(2点)、大正11年(1922)6月4日(2点)にこれらを購入している。

3) 長野の理科標本商「高山」のラベル

柳原による追加ラベルに長與から購入したことが記録されているが(図9B)、図9Aのラベルは「長與標本店」のものではない。これらのラベル(図9A)は、長野県の理科標本商「高山」のラベルで、長與経由で柳原が入手した「高山」の仮剥製標本は15点ある。柳原は大正10年(1921)1月25日(4点)、同年2月14日(5点)、大正11年(1922)6月4日(1点)、同年7月9日(1点)、大正12年(1923)2月15日(4点)にこれらを購入している。

5. 長與標本店のメグロ標本について

メグロ *Apalopteron familiare* は小笠原諸島に固有なミツスイ科の小鳥で、亜種ムコジマメグロ *A.f.familare* は父島列島と聳島列島、亜種ハハジマメグロ *A.f.hahasima* は母島、向島、妹島に分布する。亜種ムコジマメグロ *A.f.familare* は、1930年以降、確実な記録がなく、絶滅したと考えられている(梶田, 2002; 松田・金井, 2002)。

長與標本店が販売したメグロ *A.familare* 標本(図10, 11)は、5点が確認できた。このうち、国立科学博物館

所蔵(旧京都帝国大学所蔵)の標本は、明治43年(1910)11月、小笠原群島父島採集の雌雄2点で、岐阜県博物館所蔵の標本は、大正2年(1913)11月、小笠原島採集の雌雄2点、大正6年(1917)12月小笠原母島採集の雄1点である。

これらの仮剥製標本に付された長與標本店のラベルは、国立科学博物館所蔵のもの(図10)には、中央下方に「長與標本店」と印刷されているが、岐阜県博物館のもの(図8, 11)にはない(ただし、柳原要二がつけたラベルに長與から購入したことが記録されている)。いずれも、採集地や採集年月の記載はあるが、採集者は不明である。また、国立科学博物館所蔵の長與標本店のメグロ *A.familare* 標本には、黒田の印がある。

6. 考察

柳原要二の住所人名録(図1)と標本の一部が収納されていた木箱(図2-6)の宛名などから、長與鼎が博物標品商兼輸出入商であること、横浜(森岡, 2000)以外に東京市神田区裏猿楽町六番地にも店舗があったことがわかった。長與標本店の巣卵標本には柳原が付け加えたラベルがないが、仮剥製に付けられたラベルから、柳原は大正9年(1920)7月20日から大正12年(1923)2月15日にかけて、長與標本店からたびたび標本を購入したこともわかった。東京学術標本業組合(1925)が発行した普通教育学術標本日録には、長與標本店の広告はない。この日録の緒言には、大正12年(1923)9月1日の関東大震災で組合員が多大な損害を被ったことも記されている。大正12年(1923)2月15日以降、柳原が長與標本店から標本を購入していないのは、東京にあった店舗が被災したことによるのかもしれない。

長與標本店の標本ラベルには、採集者名が記録されていないが(図7, 8, 10, 11)、木箱の裏の宛名書き(図4)と標本ラベル(図9A)から、長與標本店と取引があった採集人(または標本商)が二人確認できた。一人は静岡県の富士山麓(須走)の動物採集人、高田昂である(図4)。高田は、横浜の貿易商、アラン・オーストンの依頼で鳥獣を採集した人物でもある(靱山, 1930; 松山, 1997)。もう一人は長野県の「高山」である。柳原要二の住所人名録(図1)には、高田昂の名前は見当たらないが、「高山」については高山鼎二が理科標本商として記入されている。高山鼎二はタカヤマケミカル株式会社の創始者、高山忠四朗の義父で、農務省の鳥獣調査員であった(日本野鳥の会諏訪支部, 2000)。

山階(1930)は、ハハジマメグロ *A.f.hahasima* を記載した論文の中で、『小笠原島で長與鼎が採集したという

カラスバト *Columba jathina jathina* をかつて見たが、明らかに伊豆七島産のものようだった・・・（*原文は英文）』と、長與標本店の標本の産地等の不確実性を指摘した。したがって、山階(1930)は、長與が明治43年(1910)に採集したというメグロ *A.familiare* 標本(図10)の採集地(小笠原群島父島)についても強い疑いを持っていた。山階(1934)が『・・・長與氏(実際渡航したるは高田昂なりと云ふ)・・・』と述べているように、長與が動物採集人(または研究者)であったという記録はない。高田昂がアラン・オーストンの依頼で小笠原母島及び姪島でメグロ *A.familiare* を採集したのは明治37年(1904)1～2月で(初山, 1930)、確認できた長與標本店のメグロ *A.familiare* 標本の採集日には合致しない。長與標本店がどのように小笠原産のメグロ *A.familiare* を仕入れたのかは分からないが、高田昂は長與の依頼で、小笠原へ渡航した可能性もある。また、初山(1930)によれば、当時はメグロ *A.familiare* の活鳥も東京へ持ち込まれ、オガサワラメジロあるいはシマメジロとして売られていたという。長與標本店のメグロ *A.familiare* 標本は、ラベルにオガサワラメジロと記されており、飼い鳥を入手し、標本にしたものかもしれない。

謝辞

国立科学博物館の西海功博士には資料の閲覧等で多大なご協力をいただきました。記して感謝申し上げます。

参考文献

- 岐阜県博物館 2001. 平成13年度夏季特別展図録「あそころいた鳥—柳原さんがあつめた鳥—」. 岐阜県博物館, 岐阜. 69 p.
- 梶田 学 2002. “ムコジマメグロ” 環境省編, 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブック— 2 鳥類. 財団自然環境研究センター, 東京, p43-44
- 松田道生・金井裕 2002. “ハハジマメグロ” 環境省編, 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブック— 2 鳥類. 財団自然環境研究センター, 東京, p222-223.
- 松山資郎 1997. 野鳥と共に八十年 聞いたり見たり験したり. 文一総合出版, 東京. 311p.
- 初山徳太郎 1930. 小笠原諸島並びに硫黄列島産の鳥類に就て. 日本生物地理学会会報 1(3): 89-186.
- 森岡弘之 2000. 紙碑 小林桂助氏を悼む. 日本鳥学会誌 49(3): 161-163.

- 日本野鳥の会諏訪支部2000. 鳥卵標本—高山コレクションについて—. <http://homepage2.nifty.com/wbsuwa/egg/eggs.html>.
- 説田健一・時田賢一 2001. 柳原要二鳥類コレクション標本目録. 岐阜県博物館研究報告 22: 22-68.
- 説田健一・齊藤郁子 2003. 折居彪二郎から柳原要二への書簡について. 岐阜県博物館研究報告 24: 17-27.
- 東京標本業組合 1923. 普通教育学術標本目録, 東京. 180p.
- 山階芳麿 1930. 聳島列島の鳥類. 鳥 6(30): 323-340.
- 山階芳麿 1934. 日本の鳥類と其の生態 第1巻. 梓書房, 東京. 524p.

録名人所住					録名人所住				
氏名	職業	局	電話	住所	氏名	職業	局	電話	住所
長元能五郎	宇佐美徳武				...
...				...	鹿谷三郎				...
...				...	桂送 桂流社				...

録名人所住					録名人所住				
氏名	職業	局	電話	住所	氏名	職業	局	電話	住所
浅井手郎	眼科医			...	福吾社書店	書店			...
松永安衛	研究家			...	松本書店				...
吉田嘉次	高橋慶信
...				...	折尾勉三郎
...				...	朝倉新用社
...				...	水谷高石
...			
...			

図1 柳原要二の住所人名録
 上: 右側が4頁, 左側が1頁. 下: 右側が2頁, 左側が3頁.

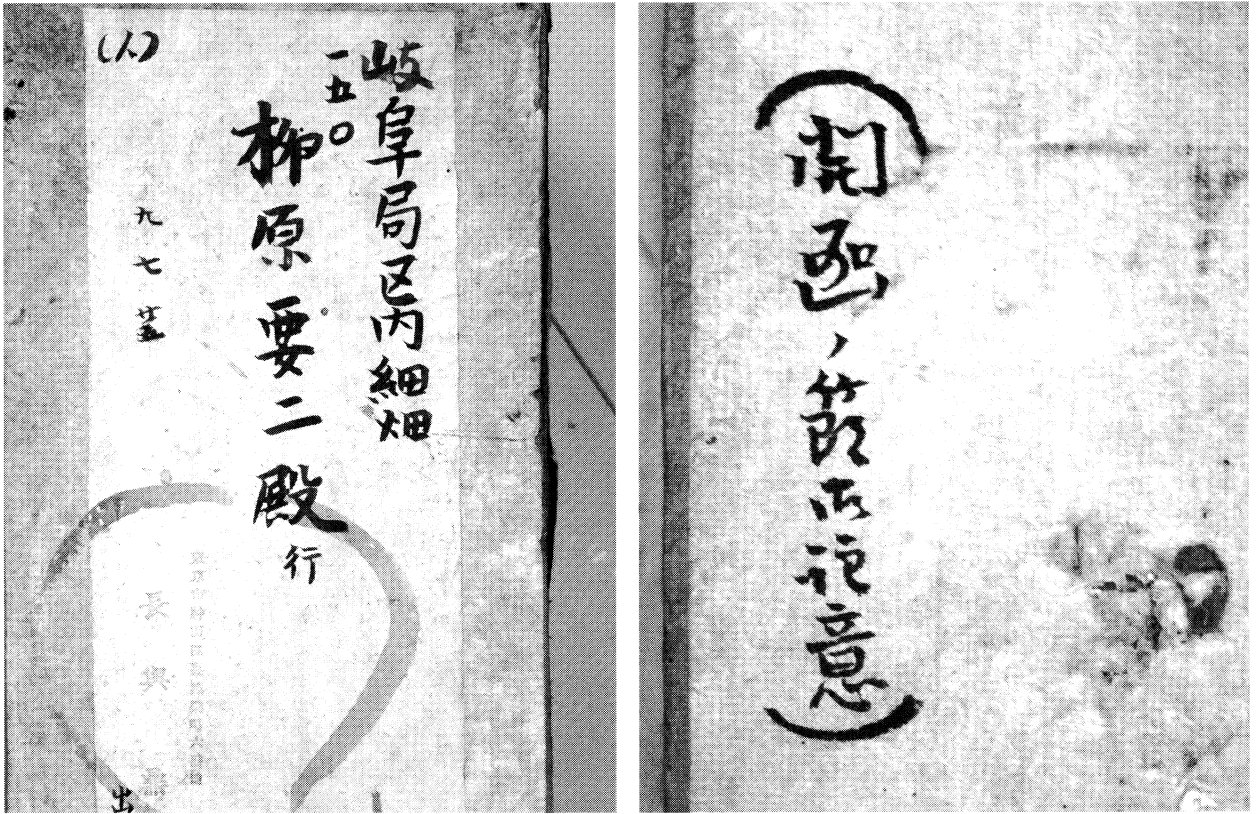


図2 大正9年(1920)7月25日発送の収納箱。左：蓋表上方の宛名書き。右：蓋表下方の注意書き。

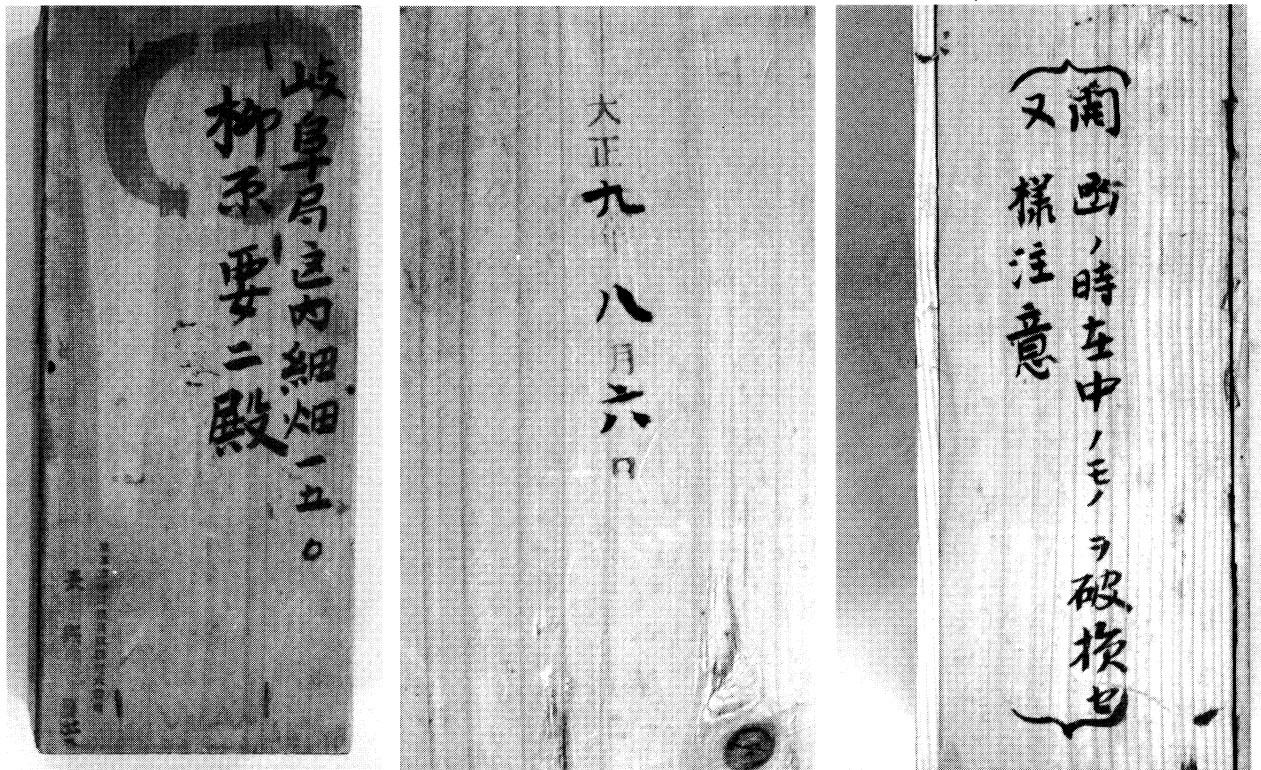


図3 大正9年(1920)8月6日発送の収納箱。左：蓋表，中央：箱の右側面，右：箱の左側面。

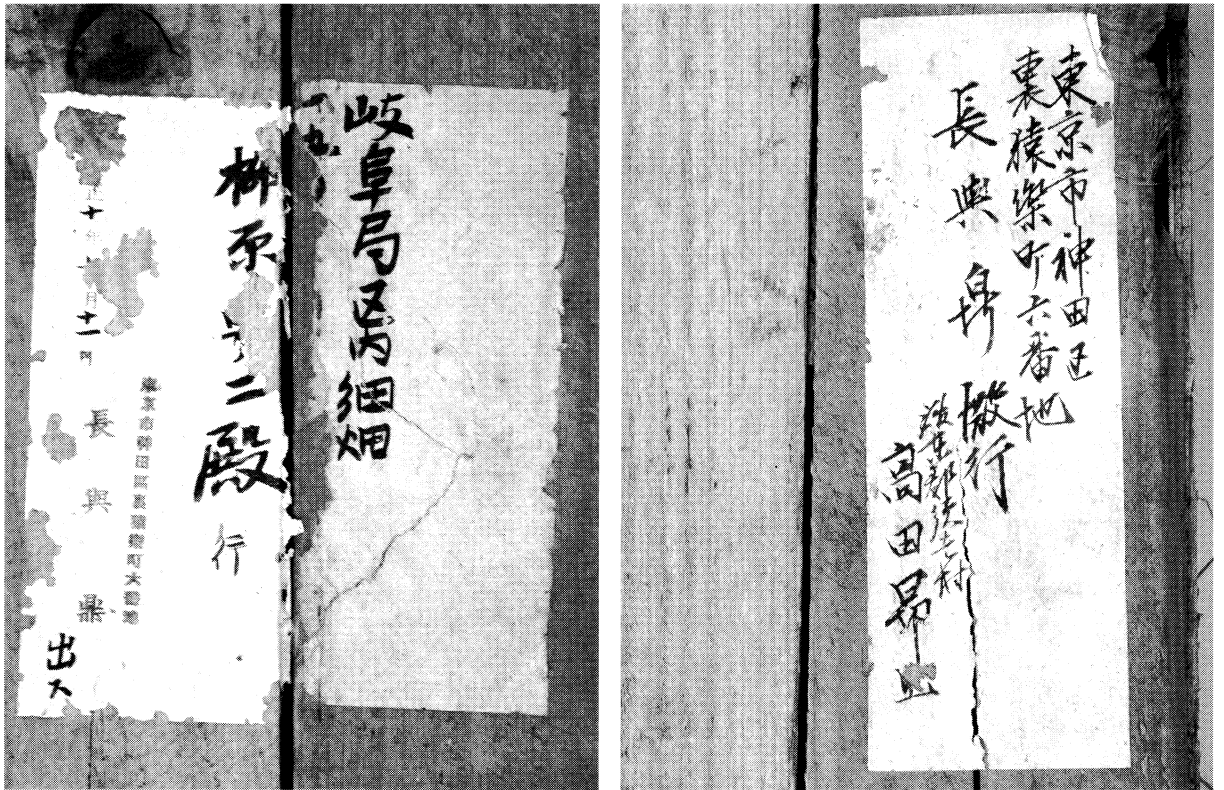


図4 大正10年(1921)10月11日発送の収納箱。

左：蓋表の宛名書き，右：蓋裏の宛名書き。（須走村の高田昂から長興鼎宛）。



図5 発送日不明の収納箱1の蓋表。



図6 発送日不明の収納箱2の箱裏。

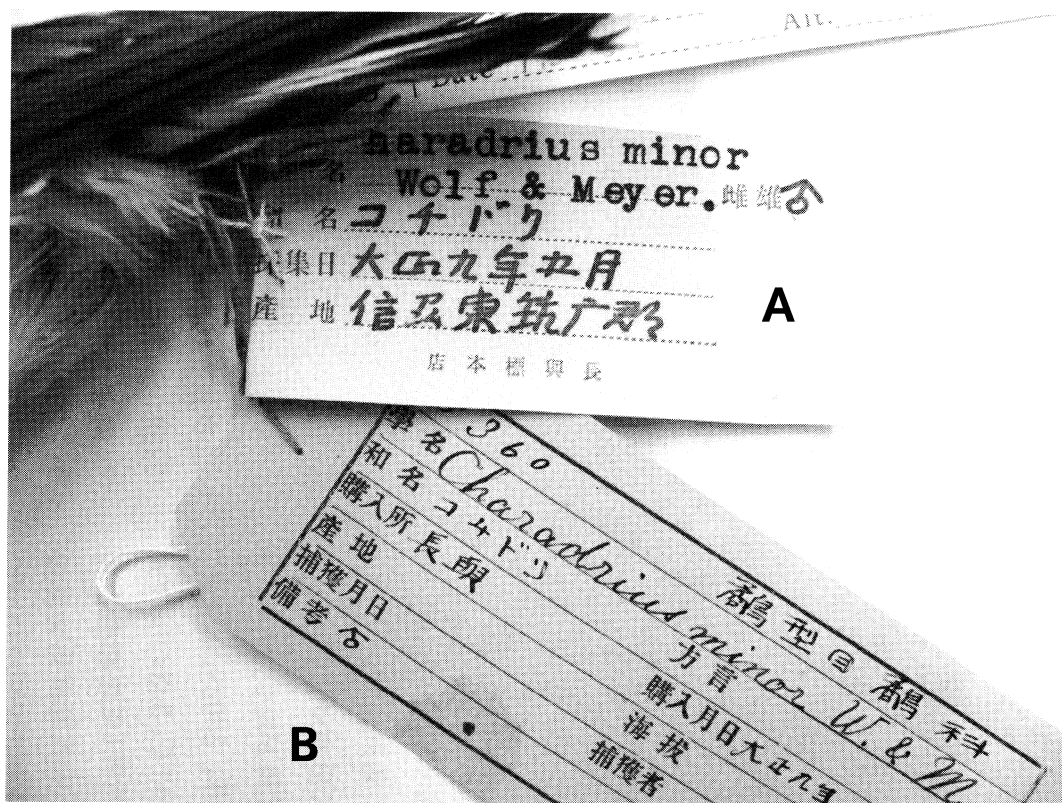


図7 長與標本店のコチドリ *Charadrius dubius* 仮剥製標本のラベル。
A：長與標本店のラベル。B：柳原要二が付加したラベル。

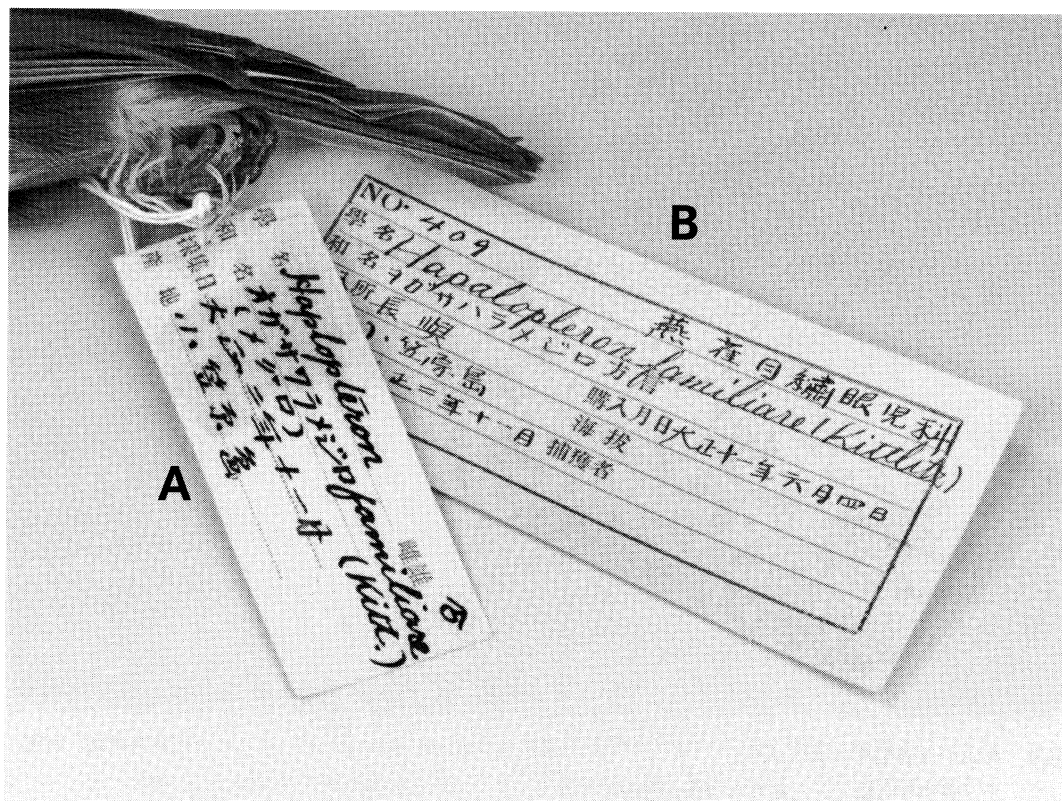


図8 長與標本店のメグロ *Apalopteron familiare* 仮剥製標本のラベル。
A：長與標本店のラベル。B：柳原要二が付加したラベル。

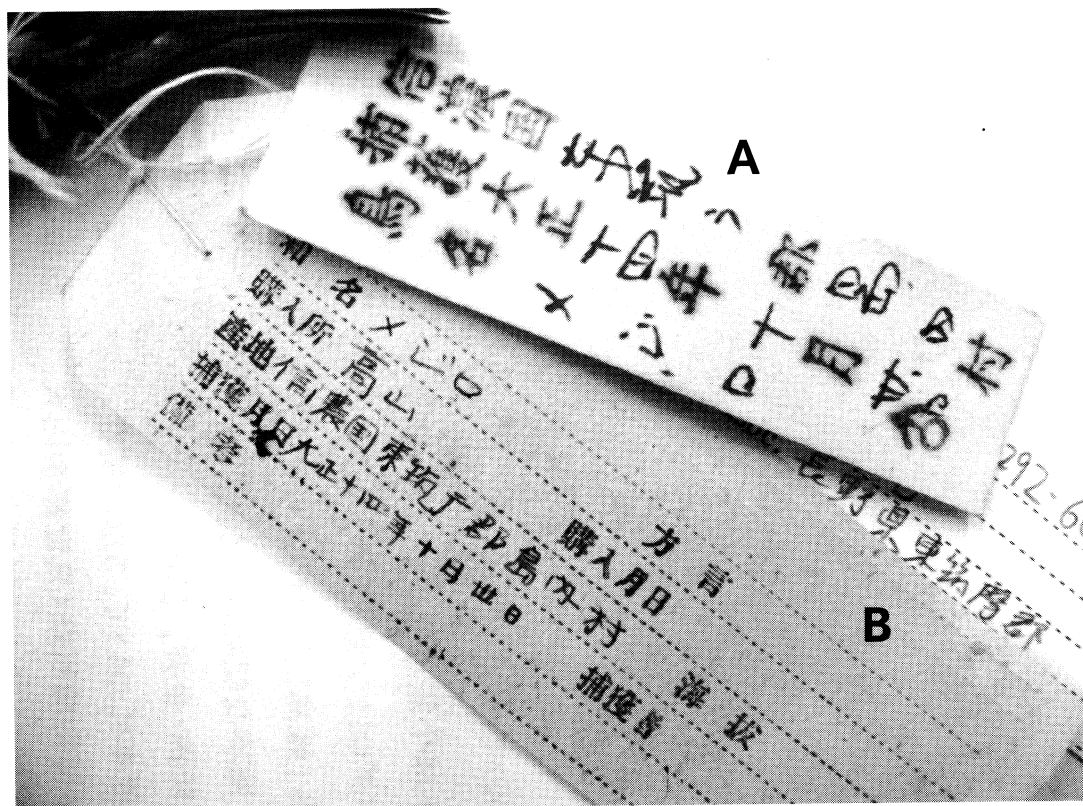
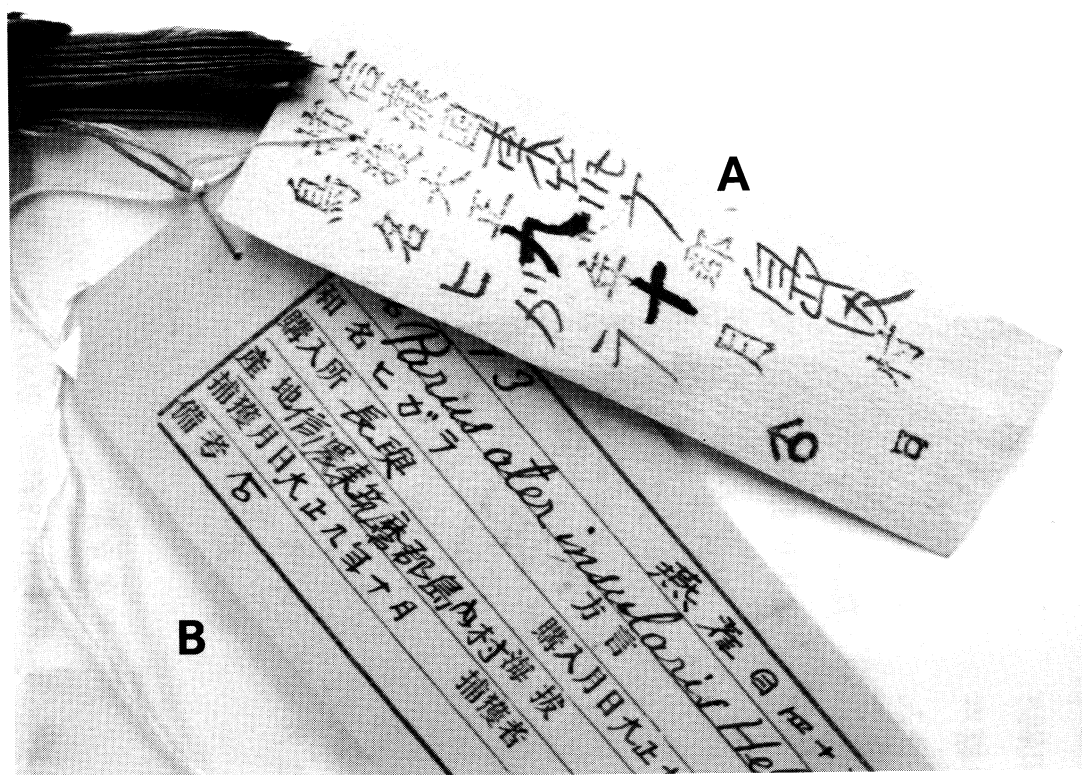


図9 高山の仮剥製標本ラベル。

上：長與から購入したヒガラ *Parus ater*。

下：高山から購入したメジロ *Zosterops japonicus*。

A：高山のラベル。B：柳原要二が付加したラベル。

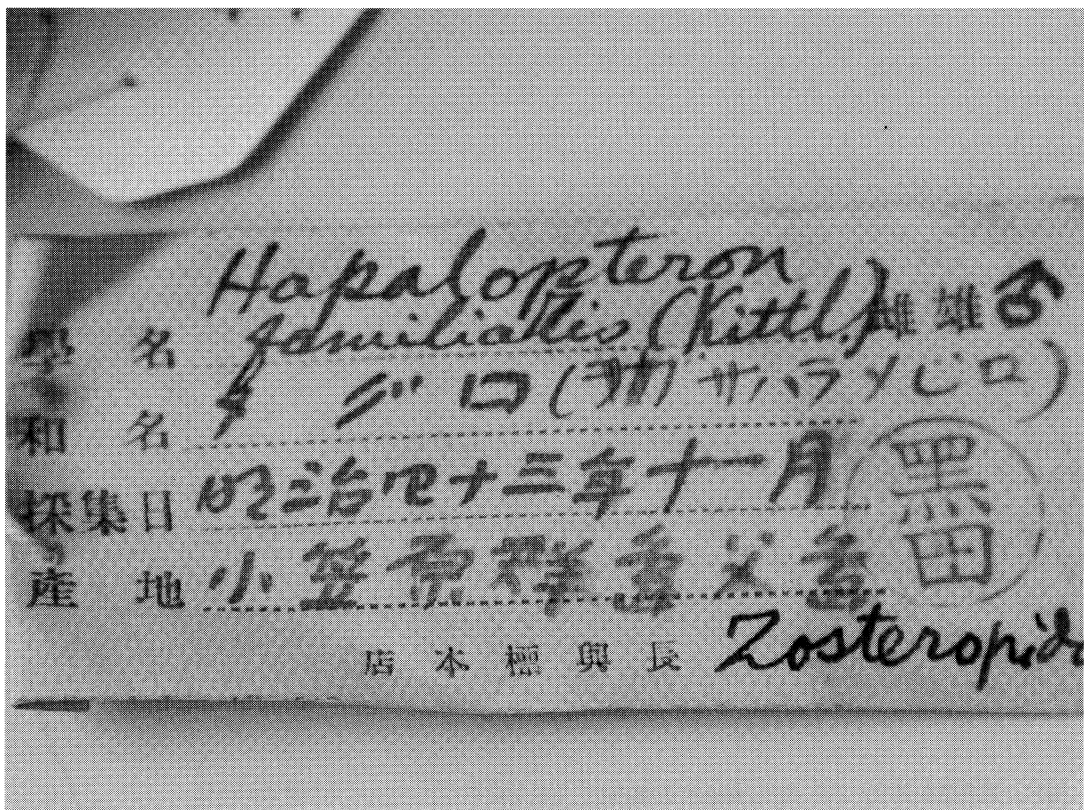
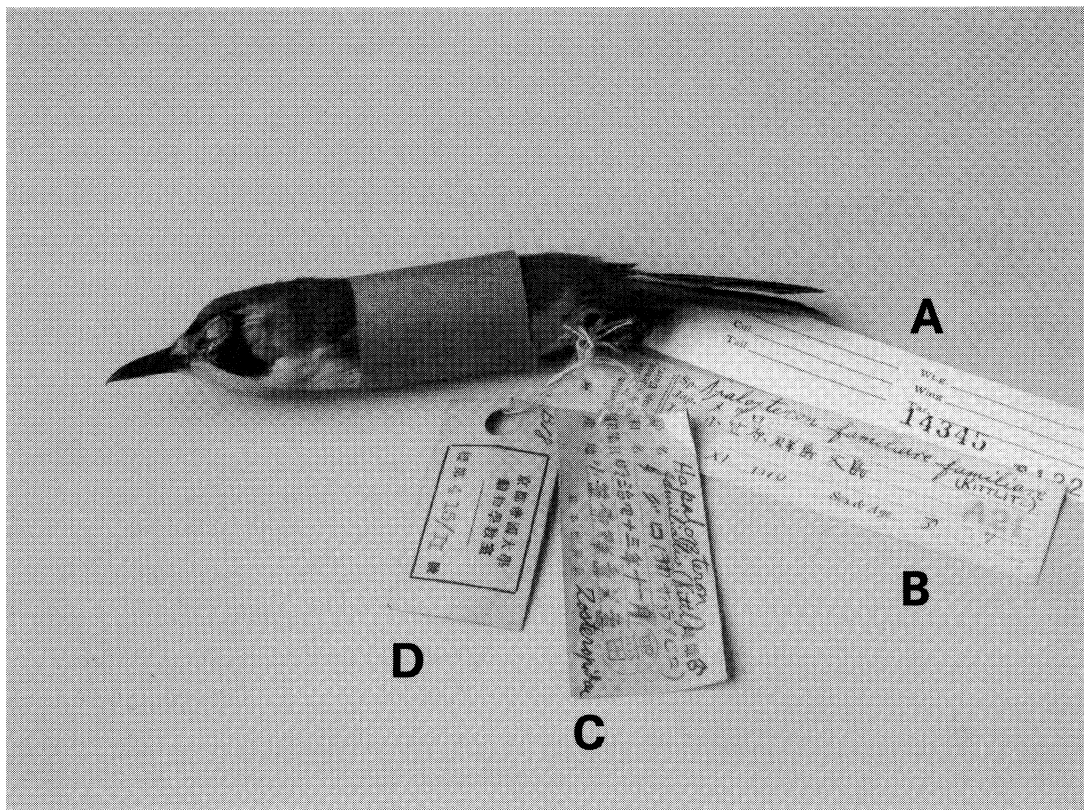


図10 長與標本店のメグロ *Apalopteron familiare* 仮剥製標本のラベル(国立科学博物館所蔵)。
上：全体 (A：国立科学博物館のラベル，B：京都帝国大学したラベル1，C：長與標本店のラベル，D：京都帝国大学のラベル2)。
下：長與標本店(C)のラベル(拡大)。

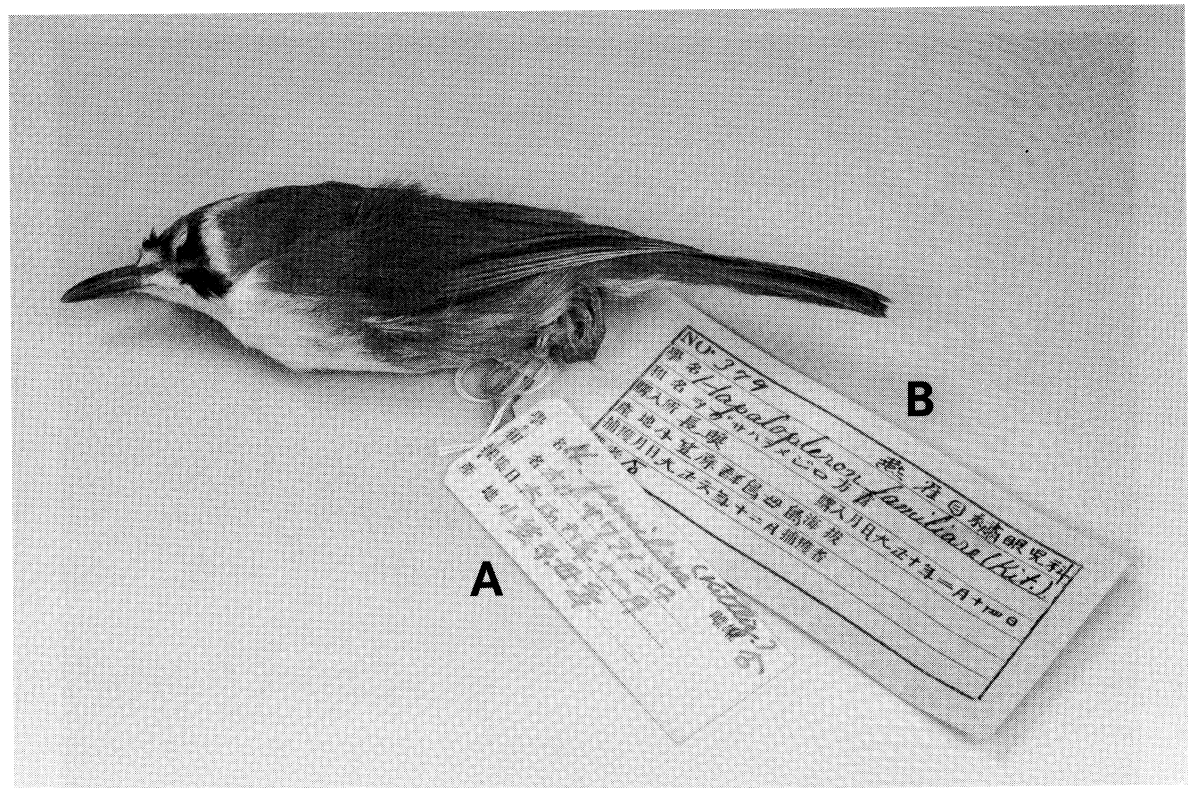
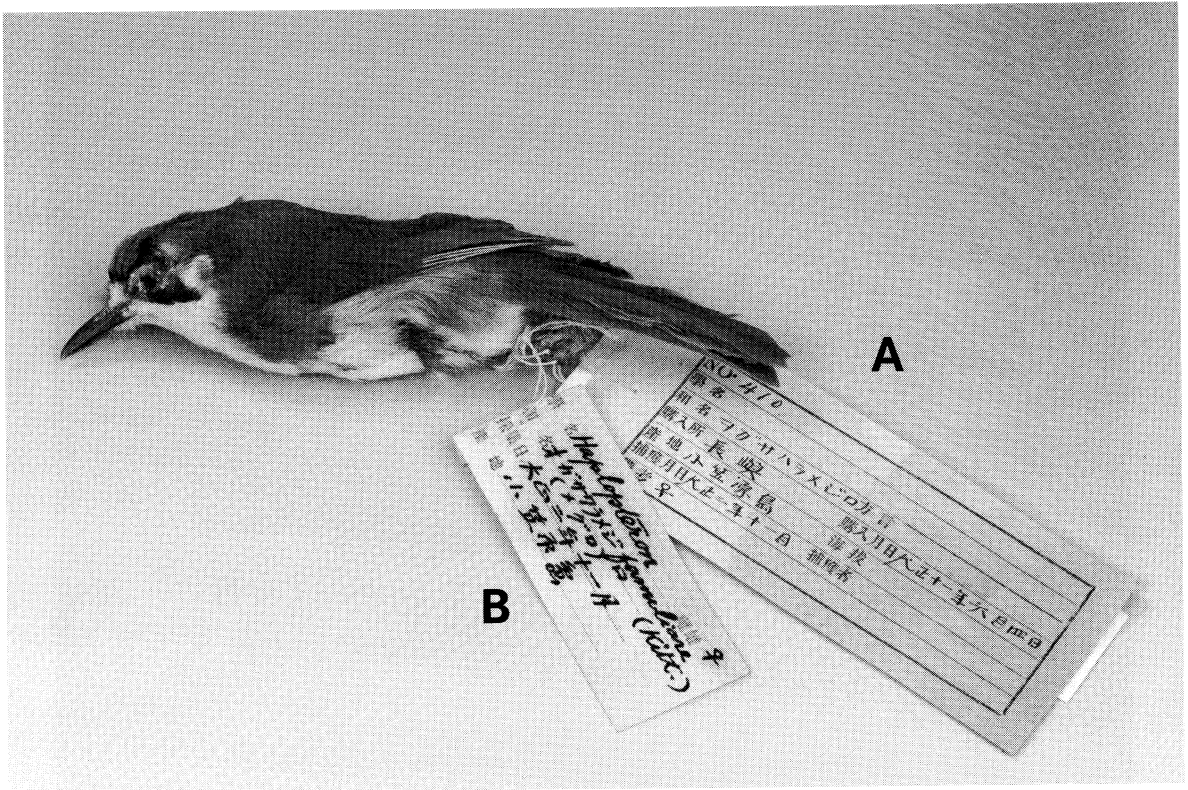


図11. 長與標本店のメグロ *Apalopteron familiare* 仮剥製標本のラベル(岐阜県博物館所蔵).

上: 大正2年(1913)11月に小笠原島で採集されたメス標本.

下: 大正6年(1917)に小笠原母島で採集された雄標本.

A: 長與標本店のラベル. B: 柳原要二が付加したラベル.